

熱血！運動部顧問の先生

1つの質問に4人の先生が本音で答える

先生
TALK!!

vol.4

今回登場するのは、運動部の顧問として活躍する私立高校の先生方です。甲子園を目指す野球部の監督、ダンスで全国一位を目指す顧問の先生など、どの先生も部活動に熱い情熱を注いでおられます。部活動を通して高校生にどんな力を付けてほしいかも伺いました。

Q1
≡
プロフィール



[FILE NO.1]
中越高校(新潟・私立)
2年担任、生徒指導部
保健体育担当
本田 仁哉先生(教員歴17年)

高 校3年の夏、甲子園への切符をかけた静岡大会の決勝戦で夢破れました。時がたてば記憶は薄れるかと思いましたが、むしろ悔しさが募り、監督として生徒たちと夢をかなえたいと思うように。縁あって今の学校の野球部監督に就任し、2003年に甲子園出場の夢をかなえることができました。これからは生徒と共に甲子園優勝の夢を追い続けたいです。

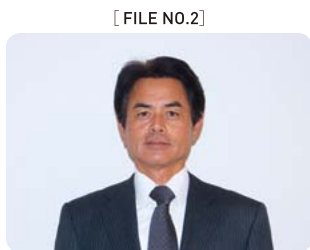
夢 や目標をもつことと、それに向かってひたむきに取り組むこと。私自身がそうしていますし、生徒にもそうあってほしいです。よく夢が見つからないと生徒は言いますが、そんなときは目の前のことに全力で取り組むことです。それによって認めてくれる人が現れ、今まで見えなかったものが見えてきます。そしてふとした瞬間、夢や目標が見つかると思います。

最 近ではないですが、最初に担任したクラスに気がかりな女子生徒がいて、根気強く向き合ってきました。次第に良い変化が見られ、バートンダーになりたいという夢をもち、専門学校に進学。それから数年後、カクテルを作る大会で賞を受賞したとの知らせが。「高校時代を先生と過ごしたおかげ」と言ってくれたことは今でも思い出だけで嬉しいですね。

時 間がないと後回しにしていることは、本当はできることかもしれない。そしてただ無条件に生徒と一緒に場所や時間を共有することが大事だ、と改めて考えています。というのも今まで自分の子どもとの時間をほとんどもたなかったのが、最近寝かしつけをするようになったから。子どもにも自分にも心地よく、かけがえのない時間になっています。

可 能性とエネルギーにあふれた高校生という存在に強い魅力を感じます。クラス担任をしていると、さまざまな生徒がいて、悩みや楽しさを語ってくれます。そこで私自身が刺激を受け、野球で壁にぶち当たったとき、発想の転換ができることも。そんなふう教室での自分と、野球部監督としての自分を良い流れで循環させ、自分自身を発展させていきたいです。

小 さな挫折と達成を繰り返し味わえるのが部活動の意義だと思っています。例えばレギュラーになれないことは挫折です。でもそこで諦めず、続ければ何かの道が拓けます。部活での経験は社会に出てもっと大きな挫折と達成を味わううえで、土台にもなります。私は彼らが喜怒哀楽を味わうところと一緒にいて、必要な手助けをしてあげたいと思っています。



[FILE NO.2]
PL学園高校(大阪・私立)
進路指導部長
保健体育担当
齋藤 大仁先生(教員歴34年)

父 の指圧治療院を継ぐつもりでした。ところが大学4年で母校に教育実習に訪れた際、ちょっと気がかりな生徒2人が、自分にとでもなついてくれて。実習終了後もその2人が元気でやっているか気になって仕方ありませんでした。そんな折、母校から「先生にならないか」と誘っていただき、飛びついたので。その2人にも再会し、今でも付き合いがあります。

知 識を伝えるだけでなく、心を育てるのが教育者の役割。根底にあるのは生徒全員に「幸せになってもらいたい」という思いです。かっこよく言う「愛」を伝えたいと思っています。例えばご両親の不仲を悩んでいる生徒に、「キミが私と一緒に学ぶことで、キミの両親にも仲良くなってほしい」という思いをもって接すると、不思議と思いが通じたりします。

休 部が決まった硬式野球部の最後のメンバーと、私が監督を務める軟式野球部で、今年の11月に親善試合をしました。大げさにするつもりはなかったのですが、噂を聞きつけてバスバンド部が演奏に駆けつけてくれた、観客もたくさん集まってくれました。翌日、硬式野球部のメンバーから感謝の言葉をもらったときは、はなむけの思いを伝えられた気がしました。

長 年監督を務めたので、そろそろ軟式野球部の伝統を引き継いでくれる後継者を探しています。本人も気付かない長所に気付かせ長所を伸ばしてくれる人、愛情を注ぎ、生徒の幸せを第一に考えられる人、野球を通じてたくさんの方を教えてあげられるような人がいいですね。そんな指導者とタッグを組んで、残りの教員生活を過ごせれば最高です。

数 年前から部活動の指導法を監督主導から選手主導に変えています。練習メニューはすべて生徒が考えます。試合後は必ず振り返りノートを書き、試合の経過だけでなく、自分の心の経過を書き、自分を客観視する癖をつけています。「ここまで頭を使ったことはない」と困った顔をしながらも、「自分で考えるのは楽しい」という生徒たちと、このやり方を追究したいです。

生 き抜く力ですね。エラーして落ち込むとまたエラーが出るのが人間ですが、エラーしても前向きに試合を楽しめば、負け試合でも達成感は味わえます。草や虫や動物たちは、もくもくと成長します。思い悩んで停滞するのは人間だけです。腹を立てても怒りをコントロールする力、めげても折れない立ち直る力を自分で育てられるようになってほしいです。



[FILE NO.3]
常磐高校(福岡・私立)
1年担任、進路指導部
英語担当
有吉朝美先生(教員歴6年)

高 校時代から教えるのが好きで、「先生に向いているよ」と尊敬する恩師もすすめてくれました。大学では進路を思い悩んでいましたが、教育実習が終わる日に生徒が放課後送別会を開いてくれたとき、「こんな私のために…」と感動。形ではなく記憶に残る仕事の素晴らしさを生徒たちに教えてもらい、先生という仕事をやってみようと思いました。

思 いやりをもつことだけを信条にしています。生徒に対しても怒るのは思いやりが欠けた姿を見たときだけ。部活動でもガミガミと怒らず、問題が起こったら思いやりの気持ちで生徒に接します。「思いやりをもって行動しよう」という単純な言葉は生徒の心にも届きやすいようで、卒業生がまだに「先生に言われたことを覚えています」と言ってくれます。

顧 問を務めるダンス部では、大会で全国1位になった実力校との合同練習を不定期で行っています。技術の高さや練習に臨む姿勢などを身近で感じてほしくて、私がお願いして実現しました。その合宿中に、生徒の1人が「貴重な経験ができたのは先生のおかげです。ありがとうございます」と言ってくれました。驚きでしたが、涙が出るほど嬉しかったです。

ダ ンス部には技術があり表現力豊かな生徒が入部する一方で、本当にシャイで話すのが苦手な生徒も入部してきます。最初はまったく話さなかった生徒も、1年経つと自分の気持ちを話せるようになります。ダンスを通して自己表現は、自分に自信をもつきっかけになるのだと思います。殻を破りたくて入部してくる生徒の気持ちに寄り添い、応援したいです。

本 校に赴任して間もなく、ダンス部を同好会として立ち上げました。まったく未経験でしたが、周囲からの要請もあり、プロのダンサーを講師に招いてスタート。徐々に人数が増え、立派な部活動に成長しました。今後は全国大会で優勝できる実力を付けたいと思っています。私も曲の編集や振付のアイデアを担当するなど、できる限り貢献したいですね。

や はり思いやりの心です。例えば舞台で発表するには音響や照明など、さまざまな人にお世話になっています。やっもらうのが当たり前と思わず、必ずお礼を言うように伝えています。社会に出てからも困難は多々あるでしょうが、「居心地の良い場所」は自分で作るしかありません。そのためには周囲に愛される、思いやりの深い人になってほしいです。



[FILE NO.4]
三田松聖高校(兵庫・私立)
3年担任、生徒指導部
英語担当
大西 祐先生(教員歴12年)

大 学では野球部に所属し、野球に熱中。進路に迷っていた4年生のある日、先輩にバッティングのアドバイスをしたら、とても感謝してくれました。自分の経験や知識をもとに何かを伝え、感謝してもらえる幸せを感じ、そんな仕事である教師を目指すことを決意。卒業後に科目等履修生として1年半かけて教員免許を取得し、教師になりました。

熱 く冷静に」ということ。物事には積極的に取り組みますが、感情的になると周りが見えなくなるので、頭は常に冷静でありたいと思っています。もう一つは「距離感」。生徒たちは「生もの」なので、離れすぎても触りすぎても腐ってしまいます。かまってもほしい子も、放っておいてほしい子もいますが、びったりの距離感を取れるように気を配っています。

野 球部の監督をしていますが、2017年春の甲子園の21世紀枠の候補として、兵庫県では私学で初めて選出されました。選考委員の方に、今までの成績だけでなく、マナーや練習への真摯な取り組みなど、教育面での指導についても評価していただいたことを聞きました。まさに自分が心がけていたことだったので、信じて続けてきてよかったと思いました。

私 はいわゆる「松坂世代」で、大学野球部の同期でプロとして活躍した人もそろそろ引退を迎え、世代交代を実感するようになりました。大学の仲間に半年に1回は会って情報交換するのですが、指導者の立場になる決意を語り合うことが増えています。私も改めて監督という立場に恥ずかしくない人格を身に付けなければいけないと思うようになってきました。

本 校は、3年前に甲子園予選の決勝を2回経験し、出場まであと一步のところで涙のみました。悔しさをばねに、今度こそ甲子園出場を果たしたいですね。もう一つは担当する英語の授業の充実です。日本の英語教育は「話せない」と言われますが、「話せる、聞ける」英語力を身に付けてほしいです。そのための授業の在り方を模索中です。

忍 耐力と理不尽なことに打ち克つ力。本校の野球部は100人以上在籍しているので、練習もままならず不満が出てきます。でもそういう困難は社会に出てからもたくさん経験すること。さらに言えば、世界中にある戦争や差別などの理不尽な出来事にまで目を向ける感受性を育てて、現状に負けずに自分なりに乗り越えたいと思っています。

Q2
≡
教員を志した理由

Q3
≡
教員として大切にしていること

Q4
≡
最近嬉しかった出来事

Q5
≡
最近気になっていること

Q6
≡
今後、挑戦してみたいこと

Q7
≡
運動部の活動を通して生徒に伝えたいこと